



下仁田ジオパーク基本構想

～世界ジオパークで再発見・ふるさとの魅力～

ダイジェスト版





下仁田は甦る

二億七千万年の大地の歴史がある
三万年の人類と大地のいとなみの歴史がある
種類の多さを誇る貴重な地質遺産と住民が、
この下仁田の地に活力をもたらし、世界ジオパークへ

下仁田ジオパーク基本構想の要旨

- 1 ジオパークを通じて、地域おこしによる経済効果の増進と活性化を目指します。
- 2 魅力ある下仁田の地質遺産を保全し、後世に伝えます。
- 3 世界ジオパークネットワーク(GGN)に登録し、その後もGGNの活動に積極的に貢献します。
- 4 世界ジオパークネットワークの基本理念を忠実に実行します。
- 5 関係団体など横の連携を強化し、地域協働でジオパーク活動を推進します。
- 6 広域的ネットワークを構築し、観光面で広く世界へアピールします。
- 7 子どもから高齢者まで思いやりとおもてなしの心をより高め、生涯学習の推進に貢献します。

目次	
概要	2
世界ジオパークとは	3
なぜ世界ジオパークをめざすのか	4
下仁田のジオサイト	6
地域住民との関わり/登録に向けての進め方	13
下仁田ジオパークの将来像	14
世界ジオパーク登録への道のり	15

下仁田ジオパークのテーマ 「多様な大地の変動から古代人の足音まで」

下仁田地域は、日本列島の生いたちを解明する上で重要なカギとなる現象が集中しています。主なものには、「三波川結晶片岩と秩父中生層」、「跡倉クリッペ(根無し山群)」「中央構造線」「本宿陥没」「関東ローム層の大露頭」などがあります。また、荒船山や妙義山など不思議な山容の山もあり、ジオを体感しながら登山やハイキングを楽しめます。

2010年(平成22年)4月には、ジオパーク推進の拠点として、「下仁田町自然史館」が設置されました。研究者や関係者の間で注目されていた下仁田の自然を、一般の人にも伝えるため、町全体で世界ジオパーク登録に向けて盛り上げていきたいと考えています。

太古のロマン 今ここに

概要

下仁田町は「多様な大地の変動から古代人の足音まで」をテーマとした世界ジオパークの登録に向けて活動しています。

下仁田ジオパークは日本列島の地質構造からみると西南日本と東北日本の接点にあたり、日本列島の生いたちを解明する上で重要なカギとなる現象が集中し、古くから地質調査に訪れる人も多く、「日本でも5指に入る貴重な場所」とも言われています。

主なものには、中央構造線に沿って九州まで続いている「三波川結晶片岩と秩父中生層」や、日本の地質百選に選定されている跡倉クリッペを代表とする「根無し山群」、西南日本を南北に分断する大断層「中央構造線」や、今から約950万年前に大陥没をおこした「本宿陥没」などがあります。

その多くの地質現象が十数キロメートル以内に密集しており、まとめて観察できる地域は、他にないと思われま

す。また、荒船山や妙義山など不思議な山容の山もあり、地質について知識がなくてもジオを体感しながら登山やハイキングを楽しむこともできます。

2010年(平成22年)4月からは、廃校になった青倉小学校を下仁田町自然史館として利用し、ジオパーク推進の拠点とするなど、受け入れ態勢も整備しております。

今まで下仁田町は、研究者や関係者の間では「興味深い・とても面白い」と言われていましたが、今後は、その面白さを一般の人にも伝えるため、「わ

かりやすい解説・地元住民のガイドの育成・気楽に参加できるイベント」などを行い、町全体で盛り上げて世界ジオパーク登録に向けて活動していきたいと考えています。

今回、日本ジオパークに登録となり地質学的にも深い関連のある埼玉県秩父市や下仁田戦争の水戸天狗党の出発地点である茨城県北など、下仁田とつながりのある地域との連携により、日本ジオパークネットワークにも貢献できると考えています。



国内のジオパーク
(2011年9月現在)

世界ジオパークとは

●ジオパークのはじまり

「ジオパーク」という言葉は、Geology(ジオロジ)＝地質学・地球、Park(パーク)＝公園、を組み合わせたオリジナルの造語です。大地の歴史を伝える場所、地層・化石・岩石・鉱物など、大事な地質遺産を保存活用する自然公園のことです。

この素晴らしい自然遺産のある地域に多くの人に訪れてもらい、自然を楽しんでもらおうと始まったのが世界ジオパークのはじまりです。

1996年に北京で行われた万国地質会議でジオパークの議論が行われ、2000年にヨーロッパジオパークネットワーク、2004年2月にユネスコが支援する世界ジオパークネットワークが設立されました。

●世界ジオパークの基本理念

世界ジオパークの理念は、地形・地質学的に見て価値の高い大地の遺産を保全し、教育に活用し、ジオツーリズムによる地域の持続的な発展を目指すことです。

ジオツーリズムとは、地形・地質を中心とした生態系、さらには地域の歴史・伝統・文化を対象とする観光のことです。地形・地質などの地域資源を保全しつつ、活用することにより地域経済を活性化し、さらに地域自らの力による自然資源の保全を目指します。

●世界ジオパークに認定されるには

2011年9月現在、世界ジオパークは87ヵ所あります。日本では、糸魚川、洞爺湖有珠山、島原半島、山陰海岸及び室戸の5ヵ所が認定されています。

世界ジオパークネットワーク(GGN)に加盟するためには、まず、日本ジオパーク委員会(JGC)に申請します。日本ジオパークネットワーク(JGN)に加盟し、その中でJGCの推薦を受けた地域のみがGGNへ申請することができます。現在、JGNの正会員は世界ジオパークの5地域を含めた20地域です。下仁田町は、平成23年度にJGN正会員に加盟しました。

●世界ジオパークの認定とは

世界ジオパークに認められるには、地質学上貴重な露頭があるだけでなく、ジオサイト(見どころ)を結ぶルート(遊歩道など)があり、公園として公式の管理のもとに保護されていないとされてはならない、とされています。

また、ジオパークの設立には、下から上へのボトムアップ方式で行われること、組織を超えた強力な集団構想と長期にわたり公的な財政支援を行うという政治的意志、そして専門的な運営機構があることが前提とされます。

さらに、行政・関係者・住民が運営計画の作成や実施に深く関わり、ジオサイトの景観を守りながら、地域の経済的必要性を満たすというのがジオパーク設立の構想です。

世界ジオパーク加盟後も4年毎に再審査が行われ、基準に満たない場合は取り消されることがあります。

なぜ世界ジオパークをめざすのか

ジオパークのメリット

世界ジオパークに認定された場合、次のようなメリットが考えられます。

●地域住民が郷土を愛し、誇りと自信が持てる

世界ジオパーク認定により、地域住民が下仁田の貴重で優れた地質学的遺産が国際的にその価値を評価されたという誇りが持てるようになります。

“世界ジオパークの下仁田”として、住民が地域活動に参加しながら地域への愛着と自信が生まれます。これが定着するようになれば、地域離れの解消にもつながります。

●下仁田の名を世界にアピールできる

世界ジオパークに認定されることで、新聞、テレビ、インターネットなどで大きく取り上げられます。全国的に広まることで、“ジオパーク”という言葉を知らない人にも徐々に理解されるようになります。特に、「今流行りのジオパーク」などと、若者の好奇心が刺激されるでしょう。

また、日本ジオパーク加盟地域から世界ジオパーク加盟地域との連携が強まり、やがては世界各国に下仁田の名をアピールすることができます。

●軽井沢や富岡の観光客が下仁田を訪れる

下仁田ジオパークには30以上のジオサイトがあり、1日や2日で見学できるものではありません。優れた「ガイド」を養成していけば、将来的にも観光客が途絶えることがない状況が期待できます。なお、近隣の市町村と連携を深めることにより、軽井沢や世界遺産暫定リストに登載されている富岡製糸場などを訪れる観光客が、「世界ジオパークの下仁田」を訪れることが期待できます。首都圏から高速道で1時間20分程度という交通の利便性も相まって、下仁田は大きな変貌を迎えることとなります。

●世界ジオパークという信頼性

ユネスコが支援する世界ジオパークの審査を受けることは、世界遺産と同じような信頼性と質の高さが保証されます。

また、加盟後も4年に一度の再審査があることで、より一層の信頼性が高められます。下仁田を訪れる観光客もレベルの高い楽しみ方が得られという安心感につながります。

さらに、審査の基準をクリアするには、住民、地域産業、自治体が一体となって活動を進める必要があるため、町も縦割り行政から各部署の連携が不可欠となります。住民にとっても、観光客にとっても良いサービスが受けられるメリットがあります。

まちの施策にジオパーク！

世界ジオパークは、下仁田町第4次総合計画「みんなで創ろう、輝く下仁田」の6つの基本計画のすべてに関わりを持っています。

●ふるさと元気で誇りを持って働けるまちづくり

- 下仁田ネギとコンニャクをはじめとした特産農作物の生産性を高め、グリーンツーリズムとジオツーリズムが連携することで、より一層の魅力となります。
- ジオパークによる交流人口の増加で、交通の利便性を生かした企業誘致が促進できます。
- 関連商品の販売、食堂・旅館の利用客増加で、雇用の場の確保と商店街が活性化します。

●人とモノ、情報がスムーズに行き交うまちづくり

- ジオパークを巡るジオツーリズムの促進により、ジオサイトの遊歩道整備、ジオサイトとジオサイトを結ぶ道路整備、ジオエリアを結ぶアクセス道路網の整備が促進されます。
- 観光客が増えれば、下仁田駅の利用も増え、上信電鉄の存続により下仁田高校の通学も確保されます。ジオパーク巡りの足として、町営バスやガイド付タクシーが促進されます。

●美しい自然に囲まれながら、快適に生活できるまちづくり

- 美しい自然があることがジオパークの価値を高めます。長期的計画のもとに環境改善が進みます。ジオパークの効果で産業が好転すれば、定住化も進み、住宅建設も増えます。
- ジオパークは継続できる経済発展が大きな目的の一つです。資源循環型の環境について学習することで、町民が健康で文化的な生活を営む環境づくりを進めることができます。

●子どもからお年寄りまで、心身ともに健やかに暮らせるまちづくり

- ジオパークを観察(見学)するのは、町外から訪れる観光客だけではなく、町民の方々も、ジオツーリズムによって、健康づくりに役立ちます。
- 町内各地域にあるジオサイトは、それぞれの地域に住む人々とともに話し合い、盛り上げ運営していきます。このため、それぞれの地域で、連帯感や助け合いの精神が育ち、福祉の充実につながります。

●ふるさとに学び、思いやりの心と豊かな創造力を育むまちづくり

- 下仁田自然学校の設立で、自然や地域文化に触れる教育を推進し、住民が意欲を持って参加できる機会を広げます。県外・他市町村との体験教室等を開催し交流を深めます。
- 世界ジオパークは、歴史や文化の保存、伝承も含まれています。また、海外から訪れる観光客をガイドすることで、異文化に触れ、国際交流が促進されます。

●町民と行政が手を取って、共に歩むまちづくり

- 町をあげて取り組むため、職員一人ひとりが自主的に行動することが、実現の近道となります。また周辺市町村と連携し、大きな観光ルートづくりを目指します。
- 地域に開かれた行政を推進し、ボランティア・地域づくり団体、住民活動を支援して、地域協働による町づくりを展開します。

下仁田のジオサイト

～多様な大地の変動から古代人の足音まで～

●ジオパークのテーマ

下仁田ジオパークには、世界的レベルの地質学的な資源がたくさんあります。地質の宝庫といわれ、日本でも5指に入るほど貴重な場所とされています。町内には、日本列島が現在の形になるまでに受けてきた大きな地殻変動の痕跡が多く見られ、この狭い範囲でこれだけの地質現象が見られるところは他にはありません。

そこで、壮大な大地のストーリーが秘められている下仁田ジオパークのテーマは、～多様な大地の変動から古代人の足音まで～に決まりました。

●ジオエリアとジオサイト

下仁田には、恐竜が生息するより以前からの大地の変動の痕跡が見られ、その変動帯の上に住む人々の歴史と文化までつながるジオのストーリーがあります。それらのストーリーを6つのテーマに区分しました。テーマ毎にジオストーリーと見どころをご紹介します。

さらに、ジオサイトを38ヵ所(2011年4月現在)指定し、下の表のように10個のエリアに区分しました(次ページ地図参照)。これらのジオサイト候補地にそれぞれ案内看板を設置したり、遊歩道を作ったり、観察コースを設置していく計画です。

尚、ジオサイト候補地はこれからの調査研究次第でまだまだ増えていくことでしょう。

エリア区分	ジオサイト候補地	ジオストーリー
荒船エリア	荒船山・物見山・荒船風穴・内山層・御場山	本宿陥没、ジオと人
本宿エリア	物語山・阿唱念の滝・陥没の壁(瀬成)・じいとばあ	本宿陥没
馬居沢エリア	秋葉山・天狗の足跡・落沢の柱状節理	本宿陥没
小坂・妙義エリア	大桁山・中小坂鉄山・虻田の石灰岩化石・梅沢峠道・妙義石門	本宿陥没、中央構造線、ジオと人
歴史街道エリア	小坂峠道(南蛇井層, 滑花崗岩)・鬼ヶ沢橋梁(神農原礫岩)・浅間山	中央構造線、ジオと人
青岩エリア	川井の断層・青岩公園・下仁田層	中央構造線、クリッペ、古代人
青倉エリア	跡倉クリッペのすべり面、フェンスター、逆転層、跡倉礫岩、大北野の川井山石英閃緑岩、金剛の萱、白石工業白艶華工場、褶曲露頭	クリッペ、付加体、古代人
蒔田エリア	蒔田不動の滝	クリッペ
馬山エリア	富岡層群・小幡層、富岡層群と神農原礫岩不整合、河岸段丘と馬山遺跡群	中央構造線、古代人
栗山エリア	奥栗山溪谷(昇龍の滝, 三段の滝)・稻倉山・茂垣の枕状溶岩	付加体

▲表. ジオエリアとジオサイト候補地

ジオストーリー 付加体: 海底から陸へ「付加体」の形成(見どころ①)、クリッペ: 移動する大地「跡倉クリッペ」(見どころ②)、中央構造線: 日本列島の背骨「中央構造線」と多彩な岩石(見どころ③)、本宿陥没: 火山活動「本宿二重陥没」(見どころ④) 古代人: 鎗川が造った段丘と古代人の住処(見どころ⑤)、ジオと人: 変動する大地の上に暮らす人々の歴史(見どころ⑥)

※各見どころについては P9～12参照



エリア区分図とジオサイト候補地

見どころ 1 海底から陸へ「付加体」の形成

下仁田町の南部の山々は昔恐竜が繁栄していたころ、遠い海の底で堆積し海洋地殻によって陸側へ移動し、海溝付近で陸側にはぎとられ、その後隆起した秩父帯の山々です。小沢岳や奥栗山溪谷ではこれらの海で堆積したチャートや石灰岩が見られます。

また、青岩公園の青岩は海溝で陸側に付加されず、そのまま地下へ運ばれて地下の圧力と温度によって海底の地層が変化したものです。



青岩公園



青倉の石灰岩



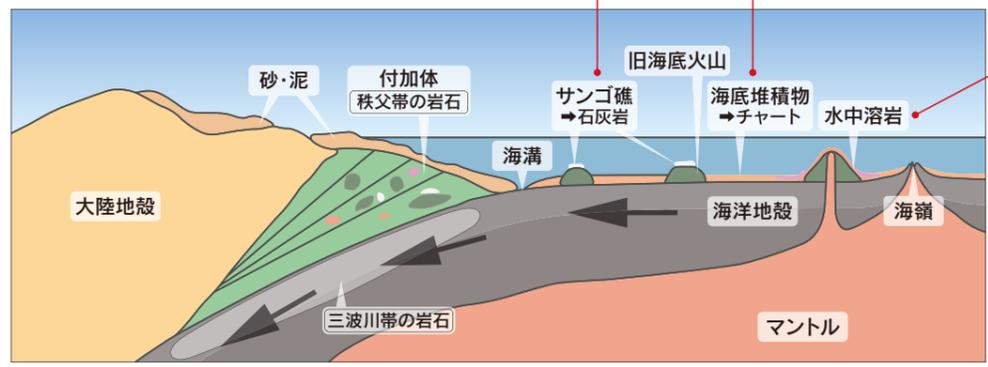
奥栗山溪谷の縞状チャート

チャートは海のプランクトンの死骸が降り積もって固まった化石です。中には放射虫という化石を含んでいます。



茂垣の枕状溶岩

水中に噴出した溶岩で冷え固まりながら流れて固結した「枕状溶岩」と呼ばれています。



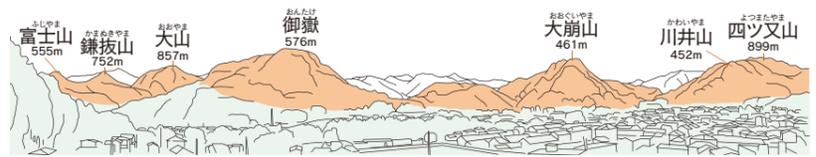
付加体とは？

長い時間をかけて海の底を移動してきた海洋地殻上には、チャート、石灰岩、水中溶岩などがたくさん堆積しており、海洋地殻が沈み込む際これらが大陸地殻に押しつけられて、張り付くことがあります。このようにできたものを「付加体」と言います。

ココがすごい

群馬百名山の小沢岳や稲倉山の地層は2億年以上の旅をしてきたことになります。

見どころ 2 移動する大地「跡倉クリッペ」



下の写真は下仁田町の中心街から南を見わたした写真です。これらの山々は根無し山(クリッペ)です。根無し山の基盤は青岩公園に広がる青い岩石で、その上を覆う地層はべつ場所から移動してきました。その後河川によって削られて現在の根無し山(クリッペ)ができました。この「跡倉クリッペ」は非常に珍しい地質現象が観察できるとして日本の地質百選にも選ばれました。

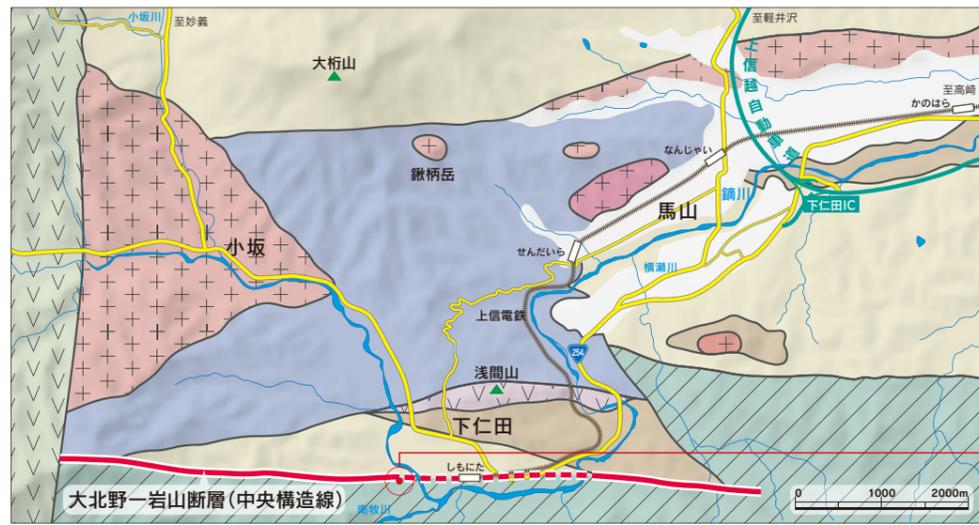
ココがすごい

根無し山を構成する跡倉層がどこからきたのかは分かっていませんが、根無し山形成の秘密は日本列島誕生の重要なカギになると言われています。



見どころ 3 日本列島の背骨「中央構造線」と多彩な岩石

下の図のように下仁田の町中を赤い断層が東西に走っています。これは中央構造線と呼ばれる日本最大の断層で西は九州まで続きます。その北側では、わずか数キロ四方のエリアに8種類もの独特な特徴をもつ地層がみられます。



下仁田町の地質略図「下仁田町と周辺の地質」より作成

	地下の深いところでマグマが冷え固まってきた石		火山が噴出してその噴出物が固まってきた岩石		河川や海などで運ばれて固まった岩石		もともとあった岩石が熱や地下深くで力を受けて変質してきた石
--	------------------------	--	-----------------------	--	-------------------	--	-------------------------------

多様な岩石

中央構造線の北側では、わずか数キロ四方のエリアの中に8種類もの多彩な岩石が密集しています。

時代も出来方も違う岩石が密集している!!!

下仁田層の貝化石

2000万年前の海の地層で下の写真のような貝化石を含んでいます。



神農原礫岩

この地層に含まれる石は中央構造線の活動の影響を受けて石がずれて固まった「ずれ礫」と呼ばれています。



浅間山

火山からの噴出物が固く固結しており、山肌は岩壁が露出しています。

根無し山のすべり面

根無し山を構成する跡倉層が移動してきて青岩にのっている様子が観察でき、岩盤同士が互いに傷つけあった傷痕に触れることができます。クリッペが形成する時のすごく激しい地殻変動を体感することができます。



変動を受けた地層

根無し山を構成する跡倉層は移動時の激しい地殻変動によって地層が折れ曲がったり、地層が上下さがさまになって逆転しているところも見られます。



大桑原の褶曲



宮室の逆転層

下仁田の川井の断層露頭は中央構造線と呼ばれる「日本列島の背骨」とも呼ばれる断層で下図のように西は九州から続いています。

川井で見られる中央構造線は関東最大級の露頭です。



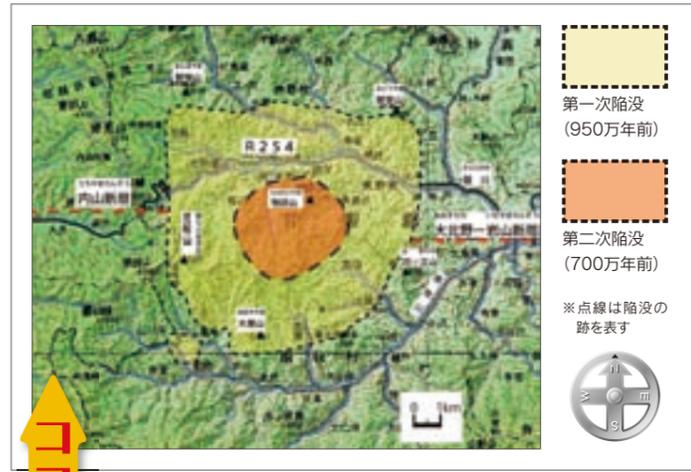
ココがすごい



川井の断層

見どころ4 火山活動「本宿二重陥没」

下仁田町の西方、本宿を中心とした直径10キロの地区では950万年前(下の地図で黄色く塗った部分)と700万年前(下の地図でオレンジ色に塗った部分)の二度にわたって大陥没し、陥没内部では大規模な火山活動がありました。



妙義火山の活動

700万年前から600万年前にかけて火山活動は本宿から妙義へ移りました。日本三大奇勝とも言われる妙義山も火山の噴出物でできており、長い年月の侵食によって奇妙な地形を造り出しています。



妙義山

ココがすごい

この本宿二重陥没の陥没区域内や妙義山では昔の火山の中を見ることができます。

激しい火山活動の痕跡



荒船山
荒船山の山頂は平坦面が13キロも続きます。これは溶岩が平らな地面に流れて固まったためだと考えられます。



じいとばあ
一番左の柱が「ばあ」次の背の低いのが「しい」右側の寄り添うように立っている柱群が「こたつ」と言われています。これらは火山の噴出物が長い年月風雪に削られて奇岩となりました。

見どころ5 鐮川が造った段丘と古代人の住処

下仁田を流れる鐮川の流域には、数十万年かけて大地の隆起と鐮川が削ったことよってできた丘状地形が見られます。下の地図で黄色に塗っている部分が遺跡で、特に馬山エリアの河床より少し高い平坦面には旧石器時代、縄文時代に人々が住んだ跡があります。



ココがすごい

鐮川流域の遺跡は長野から関東を行き来していた人々が拠点としていたと考えることができる貴重な遺跡です。

見どころ6 変動する大地の上に暮らす人々の歴史

変動する大地の上に暮らす人々の歴史



白石工業白艶華工場
秩父帯の石灰岩からは良質な炭酸カルシウムが採れるとして、明治時代に採掘が始まりました。この石灰岩は富岡製糸場のレンガにも利用されました。



町内に見られる美しい石垣
町内で見られる置き石や石積みには秩父帯の色とりどりのチャートなどの秩父帯の岩石が使われています。

ココがすごい

下仁田町の人々は今も昔も豊富な地質遺産を利用してきました。

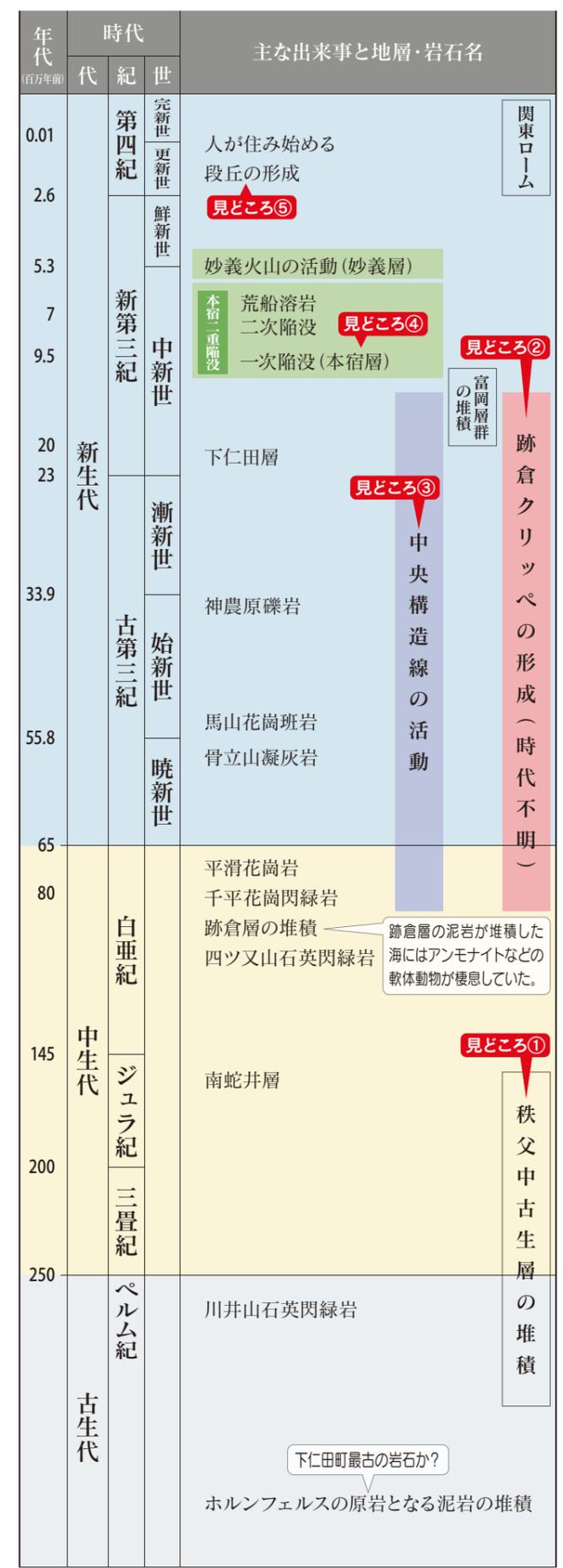


荒船風穴
明治時代から始まった蚕の種を保管するための冷蔵施設です。ここでは夏でも2~3度の温度を保つことができるため、蚕の孵化する時期を調整し下仁田の養蚕業を発展させました。また、この風穴は日本で最大の貯蔵量を誇り、現在は世界遺産暫定リストに記載されています。



中小坂鉄山
小栗上野介により江戸幕府へ開山が提案された鉱山跡地で、純度の高い鉄鉱石を採掘しており、製鉄所には日本初の蒸気機関による送風装置を備えた溶鉱炉が設置されていました。中小坂鉄山は、現在でも鉄山の坑道や鉄鉱石を鉱山から運び出すためのトロッコ道が保存されており、町の重要文化財に指定されています。

下仁田の大地の生い立ち「ジオストーリー」



地域住民との関わり

世界ジオパーク登録へ向けて、町ではさまざまな組織が作られ、活動を行っています。今後も、各地区毎にジオサイトの会を立ち上げ、住民の皆さんにジオパークを浸透させて行くことが課題です。

ジオパーク下仁田協議会

下仁田町長を会長に、下仁田自然学校長、下仁田町教育長他、町内外の有識者で構成されています。

下仁田ジオパークプロジェクトチーム

下仁田町役場職員で、組織されるプロジェクトチームです。

青倉ジオサイトの会

青倉を考える会会長を中心に組織された、青倉地区の住民の方々の団体です。馬山・小坂地区などでも、ジオサイトの会が広がり始めています。

語る会・現地観察会

下仁田自然学校と協力して、語る会や現地観察会を開催しています。

語る会では、下仁田自然学校の先生や町役場の職員により、詳しい説明や解説を聞き、活発な意見交換がされています。

地元の方々からもさまざまな情報が集まります。

現地観察会では、実際に自分の目と足でふるさとの自然を再発見する活動が行われています。

下仁田中学校ジオ教室

下仁田中学校の1年生は、総合学習の時間を使ってジオ教室に参加しています。年間5回程、1回約2時間、現地の観察をしながら、詳しい説明を聞きます。

子ども自然体験教室

公民館主催で、町内の小学生を対象に、年間7回程、土曜日の午前を中心にジオサイトを利用した自然散策が行われています。

ジオパーク講演会

ジオパークへの、町民への浸透と理解を深めるため、講演会やパネルディスカッションが行われています。回を重ねるごとに参加者の理解も深まり、活発な意見交換がなされます。

自然史館の開放

ジオパークを、一般の人たちにわかりやすく紹介しています。手作りの下仁田町地形模型もあり、一目で町特有の地形を見ることができます。

登録に向けての進め方

- 整備計画の作成
- 案内看板・案内標識の設置
- ガイドブック・パンフレット・リーフレットの発行
- 下仁田中学校との連携・子ども体験教室との連携
- ガイドの養成とガイド組織の発足
- ツアープログラムの作成
- ツアーシステムの整備
- インフラの整備(遊歩道・駐車場・トイレなど)
- 下仁田ジオパークの拠点として自然史館(博物館)の整備・展示品の充実
- 広告宣伝の充実

下仁田ジオパークの将来像

日本列島の中心・下仁田

下仁田の地層・地質は、2億7千万年前から現代まで多種多様に見られ、日本列島の縮図ともいえる地域です。

この下仁田で地域おこしが活発に行われ、将来ジオパークとして、又、地形的にもまさに日本列島の中心となって行くことでしょう。

町をとりまく社会の将来像

● 少子高齢化・過疎対策への道

今、全国的に少子高齢化による過疎化が深刻です。就業の場が少ない、交通アクセスが不便など、いくつかの原因が考えられますが、このような条件でも過疎になっていない地域もあります。それは、「その地域が将来への夢と希望を持っている」「それを実現させる企画力と実現可能な計画性がある」かどうかなのです。

ジオパークによる地域おこしが、下仁田町の過疎問題の解決手段の一つになって行くことを願っています。

● ジオパークと防災

2011年3月11日、東日本大震災が発生し、多くの犠牲者が出てしまいました。このような自然災害に対応するためには地元の大地の成り立ちや、過去の歴史を知る必要があるのです。

下仁田町は下仁田ネギヤコンニャクという贈り物をジオの恵みとして受け、歴史を積み上げてきました。しかし、恵みだけではなく、災害を生む要因も併せ持っていることを

忘れてはならないのです。

みんなで下仁田町の特徴ある地形・地質を理解し、より安心して暮らせる町を自然とともにまると後世に引き継ぐのが下仁田ジオパークの大きな役割なのです。

将来の下仁田とジオパークの成熟

- ①重要な大地の遺産、そのほかの自然遺産や文化遺産が、ジオパークとして明確に定められている。
- ②ジオパークのある地域が法規制に基づき、自然、文化遺産が確実に保護されている。
- ③博物館、ガイドブックやガイドマップで、ジオパークの見どころがわかりやすく解説されていて、ジオサイトへの遊歩道が整備され、見どころには解りやすい説明看板が設置されている。
- ④地域住民や小中学生が講演会、現地観察会や学校教育などを通じて、地元の自然や文化遺産の価値をよく理解している。
- ⑤地元でガイドを養成し、ガイドつきジオツアーを行っている。
- ⑥ジオパークを保護しながら地域経済を活性化し、地域の持続可能な発展を実現している。
- ⑦しっかりとした運営組織と運営計画があり、必要な人材の確保がされている。市町村、自然学校、各種団体、企業、大学、研究機関がボトムアップの運営組織を作り、持続可能な資金の確保がされている。
- ⑧世界ジオパークの活動に参加し、ほかのジオパークと知識・情報・ノウハウを交換し、世界ジオパークの活動に貢献している。

世界ジオパーク登録への道のり				
1999	平成11年	4月		下仁田町吉崎・下仁田幼稚園跡に下仁田町自然史館を設置
		6月		下仁田自然学校を開校。以後、体験学習と交流の場として、観察会・研修会を行い、指導養成をしている。(ジオパーク活動の原点ともいえる)
2007	平成19年	5月	8日	日本の地質百選に「跡倉クリッペ」が選定される
2008	平成20年	6月	30日	高木秀雄氏(早稲田大学教授)からジオパーク登録を薦められる
		11月	2日	第1回ジオパーク講演会開催。講演「下仁田町にジオパークを(自然の恵みを町づくりに)」講師:高木秀雄氏
2009	平成21年	5月	29日	第2回ジオパーク講演会開催。「下仁田町の貴重な自然遺産について～ジオパークづくりの適地下仁田～」講師:野村哲氏(群馬大学名誉教授・自然学校長)
		6月	22日	日本ジオパークネットワーク準会員となる
		8月	7日	第1回ジオパークプロジェクトチーム会議
		8月	21日～23日	地学団体研究会第63回全国学術大会が下仁田町で開催される
		11月	14日	第3回ジオパーク講演会及びパネルディスカッション開催。講演「糸魚川・世界ジオパークへのあゆみ」講師:竹之内耕氏(糸魚川フォッサマグナミュージアム学芸員)パネルディスカッション「下仁田ジオパーク実現のために何をすべきか」
		12月	8日	「ジオパーク下仁田協議会条例」下仁田町議会で可決
2010	平成22年	1月	22日	「青倉ジオサイトの会」発足
		2月	1日	下仁田自然学校・下仁田町吉崎から青倉小学校跡へ移転
		3月	2日	第1回ジオパーク下仁田協議会開催
		3月	13日	第4回ジオパーク講演会。講演「下仁田ジオパークと金剛萱遺跡」講師:中村由克氏(野尻湖ナウマンゾウ博物館学芸員・金剛萱遺跡研究会代表)「下仁田ジオパークと青倉ジオサイト」講師:高木秀雄氏(早稲田大学教授・日本ジオパーク委員会委員)
		4月	1日	教育委員会事務局内に「ジオパーク推進室」設置
		5月	23日	「日本地球惑星連合2010年大会」ポスター発表部門参加於:千葉県幕張メッセ
		8月	21日～22日	「日本ジオパーク糸魚川大会」参加。於:新潟県糸魚川市
		9月		下仁田町のジオパークのテーマ「多様な大地の変動から古代人の足音まで」の決定。「博物館名称」「キャッチフレーズ」「ロゴマーク」一般公募
		11月	20日	第5回ジオパーク講演会及びパネルディスカッション開催講演「ジオパークがもたらす経済効果～下仁田ジオパークの実現を目指して～」講師:野村哲氏(群馬大学名誉教授・下仁田自然学校長)
2011	平成23年	3月	5日	第6回ジオパーク講演会と討論会。講演「糸魚川における世界ジオパークの取り組み」講師:岩崎良之氏(糸魚川ジオパーク推進室長)
		4月	22日	日本ジオパーク委員会(JGC)申請を行う
		5月	23日	地球惑星連合大会内で審査員を対象としたプレゼンテーションを行う
		7月	27日～28日	日本ジオパーク委員会(JGC)審査員の審査を受ける
		9月	5日	日本ジオパーク委員会(JGC)理事会において日本ジオパーク認定『下仁田ジオパーク』誕生
		9月	29日	日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会において認定書授与式

ジオパーク下仁田協議会の活動				
2010	平成22年	3月	2日	第1回「ジオパーク下仁田協議会」開催
		4月	25日	第2回「ジオパーク下仁田協議会」開催
		8月	6日	第3回「ジオパーク下仁田協議会」開催
		10月	14日～15日	ジオパーク下仁田協議会・プロジェクトチームによる先進地視察糸魚川市フォッサマグナミュージアム、長野市戸隠地質化石博物館他
2011	平成23年	1月	19日	第4回「ジオパーク下仁田協議会」開催
		4月	21日	第5回「ジオパーク下仁田協議会」開催

青倉ジオサイトの会の活動				
2010	平成22年	1月	22日	「青倉ジオサイトの会」発足第2回「青倉ジオサイトの会」開催
		2月	26日	第3回「青倉ジオサイトの会」開催
		7月	1日	第4回「青倉ジオサイトの会」開催
2011	平成23年	1月	28日	第5回「青倉ジオサイトの会」開催

下仁田町教育委員会 ジオパーク推進室
〒370-2611 群馬県甘楽郡下仁田町大字青倉158番地1
TEL 0274-70-3070 FAX 0274-67-5315 ホームページ <http://www.town.shimonita.lg.jp/>